

付表②①中国人慰安婦・性暴力被害者証言一覧表①

①

* (氏名の横列に○が二箇所以上あるのは、証言が重複していることを示している。(「裁判原告」欄に「第一次」「第二次」「性暴力」「海南島」とあるのは、以下のそれぞれの慰安婦裁判の原告であることを示す。(第一次「第二次」：中国人「慰安婦」損害賠償請求訴訟、性暴力)；山西省性暴力被害者損害賠償請求訴訟、「海南島」：海南島戦時性暴力被害者賠償請求訴訟)

1, 東海岸地域 (南京・上海周辺) * (場所の分類は蘇智良・陳麗菲 “Chinese Comfort Women” の区分に基づく)。

No	氏名 (英語)	生年 没年	場所	証言内容の概略	慰安婦か 性暴力か	裁判原告	蘇・中文本 (1999)	女性戦犯法 廷 (2000)	石田本 (2004)	展示ソフ (2008)	蘇・英語本 (2014)	班・映画 (2015)	
1	雷桂英(Lei Guiying)	1929? 2007	河北省 唐山	証言内容の概略 軍の売春宿とは知らず、10歳前後から子守・女中として 住み込み、13歳で慰安婦に。この売春宿は日本人夫妻が 経営。兵士はコンドームを使用していた。半年間拷問さ れ、1943年末に慰安所から逃亡。	慰安婦						○(pp. 81-88		
2	周粉英(Zhou Fenyang)	1917 2008	江蘇省 如皋	証言内容の概略 日本軍の如皋侵攻(1938)直後に拉致拷問。外出は許さ れず。慰安所は中国人女性が経営、毎月1元ほど貰った (展示ソフの証言と矛盾)。兵士は軍票で料金を支払 い、日本人医師が定期的に検診。女主人からコンドーム を渡されていた。3ヶ月後、傀儡政府書記の身請けによ り解放。	慰安婦					○ p.13 お金を二 度も受け 取らず。 (証言矛盾)	○(pp. 89-93)		
3	朱巧妹(Zhu Qiaomei)	1910 2005	上海市 崇明島	証言内容の概略 日本軍の崇明島占領(1938)後、強姦され、将校専用の 性交線にされた。善哉は自分の家に行ったが、トーチカの 一室に連れ込まれ、週5回以上強姦された。日本軍が同 島から撤退した1939年に解放。	性暴力①						○(pp. 94-97)		
4	陸秀珍(Lu Xiuzhen)	1917 2002	上海市 崇明島	証言内容の概略 日本軍の崇明島占領後の陰曆2月(1938)、誘拐され、 軍の慰安所に連行された。施設の回りの散がは許されて いた。隊長に独占され、缶詰を貰うこともあったが、お 金は貰わなかった。中国人夫妻が慰安婦を監督し、日本 兵は強姦の際、コンドームを付けず。たまに中国人医師 が検診した。陰曆5月に慰安所から逃亡。	慰安婦							○(pp. 98-101)	

2, 華中・華北の戦闘地帯

No	氏名 (英略)	生年 没年	場所	被害状況 その他	慰安婦か 性暴力か	裁判原告	蘇・中文本 (1999)	女性戦犯法 延 (2000)	石田本 (2004)	展示ブック (2008)	蘇・英語本 (2014)	班・映画 (2015)
5	袁竹林 (英語) Yuan(Zhulin)	1922 2006	湖北省 武漢	1940年7月、中国人女性(慰安所経営者の妻)に誘導で清掃婦を募集していると騙され、鄂城の慰安所に監禁され「マヤコ」という名の性奴隷とされる。日本兵はチケットを買ったようだが、1元も貰ったことはない。且本の規定では兵はコンドームを使うことになっていたが、兵の多くは使わなかった。41年4月、逃亡に失敗したが、藤村という将校専属の妾となり、慰安所からは解放され、食堂で働く。1941年、藤村の部下の西山により、藤村からも解放された。	慰安婦 性暴力か			○ pp.116-122 コンドーム 使用が普通 だった旨を 証言し、蘇の 英語本の証 言と食違い あり。		○ p.16	○() pp.98-101()	○ pp.47-51 p.80
6	譚玉華 (英語) Tan(Yuhua)	1928	湖南省 益陽	1944年陰曆9月、日本兵に誘拐され、将校専用の売春宿に監禁された。外出は許されず、武装した兵が監視していた。同年11月、両親に依頼された地元の特会長の尽力で帰郷。	性暴力①						○() pp.108-113()	
7	李秀梅	1927	山西省① 孟県①	1942年陰曆8月、日本兵により自宅から進圭村の日本軍駐屯地へ拉致・連行され、ヤオドン(岩山住居)に監禁。5ヶ月間強姦を受けた後、大監獄より自宅へ搬送。	性暴力①	第一次 (1995)				○ p.35	()	
8	劉面換	1927 2012	山西省① 孟県①	1943年陰曆3月、日本兵により自宅から進圭村の日本軍駐屯地へ拉致・連行され、ヤオドンに監禁。約40日間強姦を受け、病氣になり、父親が銀と羊を送って解放。	性暴力①	第一次 (1995)				○ p.35	()	○ pp.27-32 p.78
9	周喜香	1925	山西省① 孟県①	18歳の時共産党に入党(村の婦連主任)、1944年3月、共産党の会合中に日本兵に襲われ進圭村へ拉致連行、民家へ6日間監禁・強姦された。その後入路軍により救出。	性暴力①	第一次 (1995)				○ p.34	()	
10	陳林桃	1923	山西省① 孟県①	夫が八路軍。1943年陰曆7月、日本兵により進圭村の日本軍駐屯地へ拉致・連行され、「夫の居場所を吐け」と拷問の上、約20日間監禁・強姦された。家族が金を渡して解放。	性暴力①	第一次 (1995)	○ pp.330-331			○ p.35	()	

No	氏名 (英題)	生年 没年	場所①	被害状況 その他	慰安婦か、 性暴力か、 性暴力①	裁判原告	蘇・中文本 (1999)	女性戦況法 廷 (2000)	石田本 (2004)	展示'17 (2008)	蘇・英語本 (2014)	班・映画 (2015)
11	侯巧蓮 (英語)	1929 1999	山西省① 孟県①	1942年陰曆3月、村長の父が八路軍に協力していたことから、日本軍に拷問を受け、進封村に連行された。ヤオトンで連日強姦され、約40日後、銀7000元を日本軍に払い解放。	性暴力①	第二次 (1996)	○ p.331 侯巧良?			○ p.32	(
12	郭喜翠	1927 2013	山西省① 孟県①	姉の夫が八路軍に協力していることを密告され、1942年陰曆7月、日本兵・清郷隊(地元の傀儡組織)に捕えられ、進封村に連行。半月間強姦・輪姦され、家族が清郷隊の金を支払い解放。その後も都合3度、進封村に連行・強姦。	性暴力①	第二次 (1996)				○ p.34	(○ pp.33-34 p.78
13	尹玉林(Yin Yulin)	1922	山西省① 孟県①	1941年2月、村に來た日本兵に見つかり、自宅で強姦される。その後一年余り、自宅で強姦が続き、山の上でも強姦された。1942年陰曆9月に再婚、他村に移住して解放された。	性暴力①	性暴力 (1998)			○ pp.37-44		○(pp.114-118(p.79	○
14	尹林香(Yin Linxiang)	1919 2000	山西省① 孟県①	尹玉林の姉、被害状況は同上。(性暴力①						(○ pp.37-38, 79
15	侯冬娥(蓋山西)	1921 1992	山西省① 孟県①	抗日婦女救国会会長。「蓋山西」とは山西一の美人の意味。万愛花とともに1992年に來日する直前、亡くなつた。山西省の性暴力被害者の象徴的存在。	性暴力①		○ p.331-332			○ p.35	(
16	万愛花(Wan Aihua)	1930 2013	山西省① 孟県①	1942年、共産党入党、抗日副隊長。同年初夏から翌年にかけて、日本兵に3回捕えられ、その都度進封村に連行された。二度目は強姦されたが(裁判の証言と真い遺いあり)、二度目からは激しい強姦・拷問を受ける。その都度逃亡を繰り返すが、三度目は顔死の状態となり、日本軍に裸のまま川に捨てられたところを地元の老人に救われ、九死に一生を得る。	性暴力①	性暴力 (1998) 二度目は、強姦を 受けたと 証言。		○ pp.111-114	○ pp.93-110	○ p.33	○(pp.119-125(p.78	○ pp.23-25 p.78
17	南二傑(Nan Erjie)	1923 1967	山西省① 孟県①	1942年春、実家に押し入つた日本兵下士官が強姦、近くの民家に拉致し軟禁。その後数ヶ月にわたり当該下士	性暴力①	性暴力 (1998)			△ (養女・弟)	○ p.28	(

18	張先兎	1926 2015	山西省① 孟県①	官により強姦を受け、遂には身籠り男児を出産した。その後逃亡するも、文化大革命中に「歴史的仮革命」の烙印を押され、自殺。 1941年1月、日本兵・警備隊（中国人による対日協力組織）により西煙鎮の自宅から拉致、河東砲台のヤオトンに監禁され、約20日間強姦され続けた。家族が借金して工面した400銀元を日本軍に払い、解放。 1941年4月、日本兵・警備隊により輪姦の上、西煙鎮の自宅から河東砲台のヤオトンに拉致・監禁。約40日間強姦が続く。家族が土地や建物を売って得た210銀元を日本軍に差し出し、解放。 1941年4月、南社村に押し入った日本軍と警備隊により捕えられ、河東砲台のヤオトンに連行され、連日強姦された。1、2週間後、夫が200銀元を日本軍に渡し、解放。	性暴力①	原告は養女楊秀蓮。			pp.49-56 pp.73-76		
19	趙潤梅	1925	山西省① 孟県①	1941年4月、日本兵・警備隊により輪姦の上、西煙鎮の自宅から河東砲台のヤオトンに拉致・監禁。約40日間強姦が続く。家族が土地や建物を売って得た210銀元を日本軍に差し出し、解放。	性暴力①			○ pp.83-86 p.29			
20	高銀娥	1925	山西省① 孟県①	1941年4月、南社村に押し入った日本軍と警備隊により捕えられ、河東砲台のヤオトンに連行され、連日強姦された。1、2週間後、夫が200銀元を日本軍に渡し、解放。	性暴力①			○ pp.76-79 p.29		○ pp.34-35 p.79	
21	王改荷	1919	山西省① 孟県①	共産党員で、抗日婦女救国会主任。夫も抗日村長として八路軍に協力していた。1942年春、抗日組織の会議中に日本軍が急襲、拷問の後河東砲台のヤオトンに連行、連日強姦・拷問を繰り返す。20数日後、父親が土地・家財を売って得た120銀元を日本軍に渡し、解放。	性暴力①			○ pp.114-117 p.30			
22	趙存妮	1918 2004	山西省① 孟県①	1942年陰曆8月、日本軍の急襲で捕まり、西煙砲台のヤオトンに拉致・連行され、連日強姦される。約半月後、家族が借金をして作った銀380元を日本軍に渡し、解放された。	性暴力①			○ pp.111-114 p.29			
23	楊鼎寺珍	1924 2002	山西省① 孟県①	兄は日本軍に協力する商務会の会計をしていたが、1941年か、42年、日本兵が自宅に押し入り、輪姦された。その後も自宅で強姦されたり、下士官専属となり強姦が輪流したが、現金を日本兵に渡し解放された。	性暴力①			○ pp.44-46			
24	楊喜何	1919 1998	山西省① 孟県①	1942年暮れ、2人の日本兵が実家に押し入り、強姦。その後も1年近く同じ2人が実家に押し入り、強姦を	性暴力①			○ pp.46-49			

繰り返した。

3. 華南の前線

No	氏名 (英語)	生年 没年	場所	被害状況 その他	慰安婦か 性暴力か	裁判原告	蘇・中文本 (1999)	女性戦犯法 廷 (2000)	石田本 (2004)	展示・V7 (2008)	蘇・英語本 (2014)	班・映画 (2015)
25	譚玉蓮	1925	海南島① 保亭県①	黎族。1943年春、日本軍の拠点のある南村に「戦地後勤服務隊」として徴用されたが、日本兵によって強姦され、粗末な慰安所に一年以上監禁された。1945年半年ばに逃亡。	性暴力①	海南島 (2001)						
26	黄有良 (Huang Youliang)	1927	海南島① 陵水県①	黎族。1941年陰曆10月頃、日本兵に自宅で強姦され、数日後村の兵舎に監禁され、昼間は労働に従事し、夜は強姦された。翌1942年春、藤橋の慰安所に連行・監禁された。2年間その慰安所をいたが、検診を受けたこともないし、兵士がコンドームをしたのを見たこともない。お金を貰ったこともない。親戚が父親が死んだので葬儀に出させてほしいと日本軍を騙し、本人の偽の墓法で作って自殺したことにして、逃亡に成功。	性暴力①	海南島 (2001)	○ pp.322-325			○ p.46 死んだのは母親、偽の墓も母の子のもの (証言に食い違い)	○ pp.126-130	
27	陳亞扁 (Chen/Yabian)	1928	海南島① 陵水県①	黎族。1942年の或る日、自警団によって徴用に駆り出され、日本軍の兵舎で昼間は労働に従事、夜は強姦された。数か月後、藤橋の慰安所に強制連行・監禁された。そこには数週間いたが、日本兵はコンドームも付けず、検診もなかった。外出は一切許されず、排世も室内の産にした。母親の懇願で、自警団団長が日本軍に頼み、解放。	性暴力①	海南島 (2001)				○ p.45	○ pp.131-134 本書の表紙を飾る写真は、この女性である。	
28	譚亜河	1925	海南島①	黎族。1941、2年頃、日本軍の「戦地後勤服務隊」に徴用され、駐屯地に連行後、山の中で強姦される。駐屯地に監禁され、昼間は仕事、夜は強姦、その後も各地の慰安所を移動させられ、日本軍の敗戦直前逃亡。	性暴力①	海南島 (2001)					(

29	林亜金 Lin(Yajin)	1924	海南島① 保亭県①	黎族。1943年秋、稲刈り中に他の女性3名と日本兵に拉致・連行され、日本軍の慰安所に監禁される。日本兵はコンドームを使わなかったが、ピルをくれた。検診は一切なかった。5か月後、父親と親戚の懇願で、他の女性と一緒に解放された。	海南島 (2001)					○ pp.135-140(
30	陳金玉	1926	海南島①	黎族。自宅に押し入った日本兵に、同宿の前で強姦される。3ヶ月ほど山に隠れるも、日本軍の駐屯地に連行され、3ヶ月間監禁・強姦された。	海南島 (2001)					(
31	鄧玉民	1925	海南島①	苗族。1943年頃、軍に徴用された際、駐屯地近くで農作業の際、日本軍将校に強姦され、以後2年間、毎日のように駐屯地の倉庫に監禁され、強姦された。体調悪化により解放。	海南島 (2001)			○ p.18		(
32	黄玉鳳		海南島①	黎族。1943年末、日本軍協力者に脅迫されて日本軍に引き渡され、強姦された。駐屯地中の「日本娘の部屋」に監禁、取調べに逃亡。	海南島 (2001)					(
33	李連春 Li(Lanchun)	1924 2004	雲南省	1942年夏、市場で日本兵に集団強姦され、その後慰安所に連行・監禁される。日本兵はお金をくれなかったの で、昼間は日用品を得るために働いて稼ぐしかなか った。慰安所には1年ほどいたが、翌1943年に逃亡し た。				○ p.157 写真のみ ？		○ pp.141-147(
34	韋紹蘭		江西省 桂林	1944年末、日本兵に軍刀を突きつけられ、トーチカに連行され、軍医の性病検査を受けた。兵隊はコンドームを使用していたが、使用しない者もいた。監禁三か月後、逃亡。帰国後、日本兵に強姦されて出来た息子を出産。						(

* (上欄)略記した典拠の、それぞれの正確な書名は、以下の通り。

「蘇・中文本」：蘇智良『慰安婦研究』1999、「女性戦犯法廷」：『女性国際戦犯法廷の全記録 I』2000、「石田本」：石田米子・内田知行編『黄土の村の性暴力』2004、

「展示版」：『ある日、日本軍がやってきた』2008、「蘇・英語本」：Su Zhiliang and Chen Lifei, "Chinese Comfort Women" 2014、「班・映画」：班志義『大場がほしい』2015

* (No.34の典拠は、糟谷廣一郎「[中国・桂林ルポルタージュ] 私は、“日本鬼子”の子」『慰安婦 強制連行』2008所収)である。